

メーリングリスト委員会から

第7回 電子メール『晒し』 委員長 和田豊郁

お話しする『晒し』とは、腹巻きのことではなくて、一般には公開されていない情報をインターネット上（ホームページやブログや掲示板など）に公開することを言います。語源はおそらく、江戸時代に行われていた公開処刑、晒し首（さらしくび）から来ているものと思われます。メーリングリストで飛び交っている情報は、参加者のみに知る権利があり、参加していない人に見せたい場合には、発言者の許可が必要です。

大変すばらしい意見なので広くみんなに知ってほしいと思っても、黙って転送したり、ましてや、ブログに載せたりしてはいけません。本、チラシ、ポスター、ホームページ、ブログ、掲示板といった不特定多数の人に読まれることが前提の文章は、誰がどこそこに何と書いていた、と人に伝えることは著者の意にならなかったことですのでどんどんやってよいことです。

これに対して、電子メールは郵便書葉と同じく、宛先の人に読んでもらうために書かれるものですから、宛先以外の人の目に触れないことが前提となっていることもあるでしょう。ですから、著者の知らぬところで公開されてしまうと、取り返しの付かない事態に発展してしまうかもしれません。内容もさることながら、個人情報に属するものには特に注意が必要です。個人情報とは、名前や住所や電話番号だけではなく、メールアドレスやハンドルネームもこれに当たります。メールアドレスがインターネット上に晒されると大量の宣伝メールが送りつけられてくることになり、迷惑では済まされない事態が引き起こされることがあるからです。

お知らせ

- 第10期通常総会、交流会 6/23: 73名Hニュープラザ 交流会統括幹事(野田一好)、次回(小林順一) 花咲かせプロジェクトを立ち上げる 今津理事長 筑後平野に伝わる昔話などの発掘とデジタル化 6.29 プロゼクト会議予定
- 幼児保護条例申請手続きへ 岡田理事 6/7 勉強会(石橋市議他参加)、助成金申請予定 夏祭りその他関係
- ゆにばひろば 7.4 久留米大学にて 島井理事 昔遊びコーナー、パレードに参加予定 シンポジウムへの参加を募ります(直接会場へ)
- 流し灯籠 8.15 筑後川(水天宮下) 早朝会場準備、夕刻にかけて本番となり 翌日 8.16 早朝から灯籠の清掃、処分
- 水の祭典 8.4 パレードと総踊り 平岡理事 SNK赤いTシャツを着てパレードに参加 踊りの練習日 7.14 キャプテン会議 7.21
- デジタルアーカイブ: 電子図書館へ次の2点UP
 - 古代九州物語、秋月家から見た九州の歴史
 - 初手物語を最終校正、7月末にはUPを予定
- 久留米ん町探検隊 5.30 御井町高良山探検 28名参加



2010年度 総会・交流会を終えて全員集合の記念写真 楽しさ満喫の交流会は、それぞれの新しい出発の場です。

ご存じですか「防災士証」資格

防災士証を修得して 真子勝代

3日間の講習を受け、最後の日に筆記試験を受講して、防災士の認証を受けた人が久留米市に36名ほどいます。有資格者は西国分校区は7名ですが、全くおられない校区もあります。

災害にたいしての認識には個人差もあって、一概には論評できませんが、阪神大震災のテレビ報道が目飛び込んできたときの驚きは忘れられません。全機能のマヒの中、地域の身近な人の助け合いが一番大切なことと自覚しました。後日ボランティア元年と命名され、災害はどこに?いつ来るのか?解らない状態で生活して考えることは、災害の予備知識を知る、知らない、では結果行動においての違いがあると思います。地球温暖化の影響もあり、他国の災害ニュースも瞬時に目にするこんにちですが、最近では、集中豪雨の影響で山本町の細い川が土石や倒木で危険なことを新聞で見ました。

毎年9月1日の防災の日には参加しています。3月中旬には西国分の防災士の方が企画されて「子供防災教室」が実施されました。当日は主に小学生が22名参加4班に分かれて、危険と感じた道、橋、マンホール、塀、看板等々を、地図に書き込みしながら、日頃は何にも感じなかった通学路や生活道路にこんなにも危険箇所があったのかと実感、標識を書き込みながら30分ほど歩いて、吃驚したと感想を述べていました。「女性防災教室」もされて、災害にたいして周知活動がされている西国分校区の取り組みは、さすがだと思います。

岡田メモ 幼児保護条例について(幼い子を守る活動)

- 1・SNK広報第27号『子どもたちを守りましょう』が会員の声としてコラムに掲載、諸氏の耳目を集めた。
- 2・理事会5.21、「幼い子を守る」について理事全員の賛同を得る。条例の制定に向けて理事会で検討する。
- 3・SNK春の交流会5.23、参加者の署名を集める。会員の意識は高く、ほぼ全員の方の賛同に感謝した。
- 4・第3回勉強会6.29、久留米市議会への請願準備 幼児保護に関する朝日厚生文化事業団あて助成金申請
- 5・東京霞ヶ関(厚労省及び法務省)6.17へ、既存の法令の有無を調査し照会する、回答はいずれも「なし」。事故の防止に向けて本件の趣旨をどのように広報するかが大切な課題となる。 理事:岡田哲也

(あとがき)「花咲かせプロジェクト」がスタートする。幼児を守る活動も緒についた。筑後平野を若者に教えたい。(式)



編集・発行 NPOシニアネット久留米 理事長 今津一躬 久留米市荘島町13-1 TEL 0942-46-2277

新しい風が吹いている

広報紙 編集長 一ノ瀬尚文

荒木農園では野菜たちがその種類を少しずつ増やしている。畑を耕し、堆肥や腐葉土を梳き込んで、ごろごろの岩に思えた土は柔らかい細粒ほどになった。畑は手入れ次第で収穫が見込めるから、荒木農園に集う日は楽しいハイキング気分となる。畑ではジャガイモやタマネギの収穫を終えたところで、例年より遅い梅雨入りとなった。

大学の研修所を借りた荒木農園は、週3日開園となり交流を楽しむ時間も増え、農園で展開する「癒しの森公園」の計画は3年目を迎えた。地域の幼児や施設を招待する「収穫祭」は、学生も農園に参加して共に祝い、年中行事として定着した。この動きを包み込むようにして大学の「ゆにばひろば」そしてSNKの「癒しの森公園」構想が筑後平野の新しい多世代間交流を育てている。久留米大学とシニアネット久留米が連携して、筑後平野の元気を創っている。

久留米大学との連携が増えてきた。大学と地域を結ぶ「ゆにばひろば」では、「まちづくりシンポジウム」やパレードなどが準備され、SNKは昔遊びや昔話を「ひろば」で再現する。筑後平野にかけて存在していた『絆』を学生たちは学ぶこととなる。地域を知りふるさとを見直す学生と市民、シニアや地域の子どもたちとのコラボレーションで、シニアの出番は増える。

2010年、新たに『SNK 花咲かせプロジェクト』が始まる。第1期デジタルアーカイブの成果を踏まえ、第2期デジタルアーカイブによる地域の深耕は続く。筑後平野に残された歴史秘話や文化遺産はまだ多い。インターネット・ネットワークによる地方の文化史の集大成が進む。

地域に埋もれた文化を紡ぎ、集め、語り合い、後世に広く伝えていく。新しい風が吹いている。

私の1枚 太田千鶴子

今から洛陽まで夜行寝台で十七時間の旅です...のつもりだったけど案の定というか、矢張り到着が二時間遅れました。たった二時間!ラッキーな旅の滑り出しでした。長江を渡って、黄河沿いに走る列車の窓からは、見える風景はガラリと変わります。そこは三国志の舞台「中原」です。はるか昔に活躍した武将の名前や知略や戦いなど、思い浮かべていると、本の中で知っている地名を駅名に見たりしてワクワクしてきます。各車両に必ずいる車掌さんは若い女性で、しょっちゅう車を廻ってくる売り子さんは、いかついオジサンというの中国らしい風景だし、中国人の乗客を見ているだけでも日本人には理解できない面が多くて面白い! 外の景色と車内の観察などをしていると退屈する暇もなく、洛陽の駅に着きました。



2010.7.4 ゆにばひろば:「おこそう！御井ルネッサンス」
まちづくりシンポジウム ～家族の絆・地域の絆～
 パネリスト：高良大社 竹間宮司、久留米市川会小学校 黒岩校長
 久留米大学 薬師寺学長、久留米大学比較文化研究所 浅見所長
 コーディネーター：久留米大学文学部 保坂教授
 日時：7月4日 10:00～11:30 会場：久留米大学 500号館 51A 教室

特集 地域で活躍するシニアたち

時代は変わる、社会も変わる、世代が代わり日本人も変わっていく
 子どもに伝えたいこと、人の優しさ、地域に残る昔遊びや昔話

教育支援助手・ボランティアからメッセージです

長い人生を生きたシニアの知恵を活かして、地域へご恩返しをしましょう。
 小学生が低学年で落ちこぼれないお手伝い（お助けマン）するのが目的です。
 京町小学校の教育目標（方針）と2010年度の重点目標
 ・方針「自ら学び豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」
 ・重点目標「自分の言葉で考えを伝え合う子どもの育成」

シニアライフとボランティア

保坂恵美子

暦の上での年齢は同じでも、若さには個人差があります。高齢になるほどその差は大きくなるといわれています。若さの個人差には2つの因子が関与しています。一つは遺伝的な要因で、他の一つは生活環境による後天的な因子です。遺伝的な因子は変えられませんが後天的な因子は生活環境によるもので変えられる因子です。従って、健やかな長寿を迎えるためには、後天的な因子への働きかけが必要です。

そのためには、病気にならないライフスタイル、生活習慣病予防が重要な課題であります。次に、ストレスをためないこと、ストレスは鬱の原因になりやすく、ストレスを発散させる場が必要です。もうひとつ、長寿者には幸福感が高く人生を肯定的にとらえる人が多いそうです。くよくよしない、チャレンジ精神、前向きな生き方が長寿の秘訣というわけです。これら条件を満たす場として、ボランティアによる社会参加は最適です。体を動かし脳を刺激し、生き生きとした人間関係を通じて自己充実感を高めるからです。

久留米大学「健康生きがいのあるまちづくり“ゆにばひろば”」は、「家庭の絆、地域の絆」づくりを通じて、地域住民の皆さま方の心と体の健康づくりと地域の支え合いのシステムづくりを目指しています。シニアネット久留米は“ゆにばひろば”の有力なパートナーとして、大学とともに日々進化し続けるボランティア団体となっています。（久留米大学文学部教授）

日本の音色

末次 眞

1200年の伝統を受け継ぎ、雅楽が今日まで広く伝わり。今日では世界が認める日本文化として、重要無形文化財に指定されています。

<http://www.kourataisya.or.jp/kankeidantai/gagaku/index.html>

御井町高良山では古来より、又戦後の子供達が多い頃には伝統芸能である、獅子舞。風流部門の長年の笛方と神職方とが中心とした練習講座です。神職方は、神学校の課程で雅楽を必須科目として学ばしく、雅楽に詳しい方が多く正確な基礎が習えます。

楽器は、太鼓、鉦、龍笛、箏、などいろいろあり、私は龍笛を吹き「越天楽」を好みました。また、高良大社や下宮での式典ではいろいろの楽器を受け持ちチームで演奏します。（高良大社雅楽同好会）

先生や学生、地域団体も参加して“ふるさとの町、地域をもっと知ろう”パレードもある「生き甲斐のあるまちづくり：ゆにばひろば」実行委員会会議 500号館の風景



豊かなシニアライフ紹介

島井新一郎さん：在宅ホスピス「結の会」代表

シニアとして円熟味を増した今日でも、多すぎる仕事を抱えている。世の中のこと「どうにかせにゃならん」ことが多いのがその理由だ。

「筑後川灯籠流し」「水の祭典」「ゆにばひろば」等、その多彩な活動を上げれば、全てのことがSNK活動と一体化する。荒木農園をベースに「癒しの森公園」の計画は3年目を迎えた。島井さんは忙しいというより、楽しんでいるところがミソである。唯一、SNKとは離れて取り組んだ「結の会」の活動は、決して特別なことではないという。ほとんどが「見守り」だ。伏せる人が家にも買い物に出かけたり散髪に行ったりと、家族が日常の暮らしができるよう患者のそばにいる。「私たちがやってるのは、そこにいるだけなんです」と。

在宅ホスピスボランティア 結の会HP

http://qnet.nishinippon.co.jp/medical/doctor/feature/post_739.shtml

島井さんは昨春、がん末期の女性のお花見に写真係として同行した。女性にとって最後となった52回目の誕生会にも結の会が加わった核家族化が進み子どものいなくなった家庭では高齢者夫婦ふたりの生活となる。ふたりとも元気な場合は良いものの、高齢化とともに健康や体調維持にも限界がある。健康を損ねてバランスを欠いた場合、健康者が介護を受け持つこととなり、大変な負担が待っている。「結の会」代表は「自分の経験から少しでも同じ境遇の家族・患者の役に立ちたい、という思いからです。人の尊厳がもっとも重視されるに相応しい、もっとも神聖なボランティアと考えています」と謙虚です。 記：一ノ瀬尚文

古代史の謎に学ぶ

(神籠石)の存在について

川浪統(かわなみおさむ)

日本書紀は、天武7年(678)12月の筑紫大地震を書いています。だが、高良山神籠石について、日本書紀に記載がありません。高良山の表示板では、「神籠石の一部がこの地震で欠落した」と読めます。地震の発生3年後に、天武天皇の日本書紀編集指示が有りました。だから高良山神籠石のことを、地震を書いた編集者は知っていた可能性があります。しかし、その存在・築造の記事は無いのです。

日本書紀完成の5年後(725)に、聖武天皇勅願で、神籠石がそばにある雷山千如寺が開山となります。勅願のとき千如寺そばの神籠石のことを、平城京の編集者は知っていた可能性が高い。しかし、この記事も有りません。

大野城・基肆(きい)城・長門城(ながとのき)の他の、九州・中国・四国にある神籠石についての記事も見当たりません。

神籠石は、主要な川の近くで、水陸交通の要所のある平地を望める位置にあります。また海拔450m位までの高さで、山の側面に連なります。1m³程の角形の石を長さ数km積んでいます。

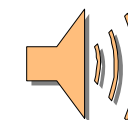
シュリーマンがトロイを発掘したように、我が国でも、神籠石の存在の意味・日本書紀不記載理由など、探し出してくれる人が待たれます。

(福岡市西区歴史よかとこ案内人、九州古代史の会、古田史学の会)

会員の声

想像力で子供を守ろう

高校英語講師 江尻陽一



新聞等で繰り返し報道される子供への虐待、暑い車の中への幼児の放置、子供の火遊びでの焼死など子供をめぐる悲惨な報道には胸がつかれるような思いを禁じえない。

私の長い教員生活では教え子に先立たれた経験もある。多くは通学時等での交通事故死である。生徒の自殺もあった。ある二年生の生徒が厳しい先生に叱られ、その夜に灯油をかぶり、焼身自殺をしたのである。一年生の時に担任をした生徒なので、当時の同級生とお盆の時期にお宅に伺ったことがある。同級生の制服姿を見て、お父さんが男泣きされ「息子のことを思い出します」と言われた。

幼児の虐待死や事故死は、親の不注意であると同時に、地域の教育力の欠如ではなかろうか。昔は近所の恐いおじさんやおばさんが、他人の子供でも危険な行為を見ると我が子のように叱ってくれていた。若い親を地域の活動に引きずり込み親しい関係を築くことも必要なことに思う。

高校生の事例とも共通するが「想像力の欠如」が根底にあるように思う。テレビ・漫画などビジュアル文化が蔓延したことで無縁ではあるまい。読書やラジオを聴いていた時代は、そこに想像力を育む素地があったように思う。今、多くの学校で「朝読書」が行われているようだが、椋鳩十先生が昔始められた「親と子の十分間読書」などを家庭で見直していくことも考えられる。長い目で見たら、それが子供を守ることにつながるのではなかろうか。